

1 月定例教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和2年1月22日(水) 14時59分～15時56分
- 2 開催場所 武雄市役所 4階会議室
- 3 出席者名 教育長：浦郷教育長
教育委員：一ノ瀬職務代理者、副島委員、大庭委員、馬場委員、岡本委員、松尾委員、田中委員、大渡委員、堀田委員
事務局：松尾こども教育部長、牟田こども教育部理事、諸岡教育総務課長、弦巻こども未来課長、野田こども未来課参事、竹内学校教育課長、百合学校教育課参事、山北生涯学習課長、野口文化課長、溝上図書館・歴史資料館長、真崎新たな学校づくり推進室主幹、杉原教育総務課長代理
- 4 傍聴者数 なし
- 5 報道関係者 なし
- 6 議事録署名人の指名 【田中委員を指名】
- 7 前回会議録の承認 令和元年12月定例教育委員会会議録
- 8 教育長の報告
 - 1 高齢者叙勲伝達 1月20日 瑞宝双光章 一丸 進 先生(元 橘小校長)
 - 2 表敬訪問 ○ 東川登小学校児童会 災害見舞金持参
仙台市立六郷小学校からの見舞金に自校募金も併せ
○ 橘小 育友会 文部科学大臣表彰
 - 3 国・県内・西部地区・杵西地区の動向
 - (1) 人事異動
 - ① 退職予定 定年退職 13名
自己都合退職 1名
 - ② 校長よりのヒアリング 1/8・1/10
 - ③ 令和2年度学級数(※ 県立中進学で減が予想される)
小学校 普通学級 106(－1) 特別支援学級 38(+6)
中学校 普通学級 ※40(+2) 特別支援学級 12(－1)
県内 小学校 34学級増 中学校 ※ 3学級増
 - (2) 働き方改革
夏休みのまとめ取り など

4 学校教育

- G I G Aスクール構想 (令和5年度までに小中学生に一人一台)
- インフルエンザによる学級閉鎖
 - 11月 山内西小 (1学級)
 - 12月 北方中 (1学級)
 - 1月 御船が丘小 (1学級)、山内東小 (3学級)
- 被災者招待
 - ・ 木下大サーカス 北方小・朝日小
 - ・ ボストン美術館展 北方中

5 行事等から

- (1) 12/25 県学校給食大会 武雄市のがん教育に高い評価
- (2) 1/3 成人式 天候にも恵まれ立派な成人式が挙行された
- (3) 1/12 範蔵まつり 多数の参会、近藤学芸員の講話
- (4) 1/14 テレビ放映 武内小「教えてもらう前と後」 なぞペー問題
- (5) 1/16 学校ICT活用フォーラム (京都)
- (6) 1/31 雄武町交流出発式
- (7) 2/8～2/9 立体作品展 (文化会館)
- (8) 2/15 18:00 市連合PTAとの教育懇談会
- (9) 2/16 トムソーヤ・フェスティバル

9 議 事

- (1) 提出議案
- (2) 協議事項
- (3) 報告事項

① 図書館の選書について

10 各課等からの報告

11 次回開催日程について

【令和2年2月14日(金)15時～武雄市役所災害対策本部室】

12 その他

- ・ 卒業式・入学式の出席割当てについて

13 閉会

14 会議録

午後 2 時 59 分 開会

○教育長職務代理者

1 分ぐらい前ですけど、始めたいと思います。

私ごとで本当に申しわけないんですけども、去年はいろいろ皆さんお忙しいところありがとうございました。お世話になりました。また、これからも微力ではありますが、よろしく願いいたします。

それでは、早速始めたいと思います。

まず、議事録署名人の指名ですけども、今回は田中委員さんになっておりますけれども、よろしいでしょうか。

○田中委員

はい。

○教育長職務代理者

よろしく願いいたします。

それから、前回の議事録の承認ですけども、何か訂正等がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうかね〔「なし」と声あり〕。

そしたら、特にないようですので、このとおりにお願いいたします。

次は、4 番目の教育長の報告です。よろしく願いいたします。

○教育長

1 月ですので、明けましておめでとうございます。また今年もよろしく願いいたします。

ちょっとばたばたしておりまして、そこに書いているところから申し上げます。

高齢者叙勲の伝達が 20 日にあり、一丸進先生、88 歳でいただけるわけですけども、一丸先生は自分でさっささっさと歩いておられます。88 歳ともなりますと、大変病気がちな方もいらっしゃるんですけども、本当に元気におられました。

それから、表敬訪問が東川登小学校の児童会、これは六郷小学校と大震災があったころから交流をされておりまして、その六郷小学校から見舞金があつて、それに自校での募金活動、それから、あそこはアルミ缶回収を以前からしておられまして、それをお金に換えていただいております。

それから、橘小の育友会が文部科学大臣表彰で市長表敬がございました。

これはいつかも言ったかわかりませんが、去年が武雄北中、その前が武雄中と 3 年連続ですね。県内 2 校ぐらい推薦されますので、それで 3 年連続ということで、本当にどの育友会、P T A も推薦したら、相当に高い評価をいただいておりますということで、今後も推薦していきたいと思っております。

それから、国・県内・西部地区・杵西地区の動向ということで、人事異動に関しては、今年度は定年退職が 13 名、自己都合での退職が 1 名という状況です。

それから、校長先生からのヒアリング、これは所長が聞くわけですが、2日に分けてやっております。

来年度の学級数としましては、小学校の普通学級が今年よりも1減、特別支援学級が6増、中学校は普通学級が今のところで40と見ていますが、プラス2という形ですが、県立中の進学で大体40名ちょっと減りますので、学級数にしても幾らか減るだろうと思います。それから、特別支援学級が1減の12。

県内でも小学校は34学級増となっており、今日出た数値なんですけど、これもほとんど特別支援学級がまだ増えているという状況です。中学校は、これはこの後、県立中の動向がありますけれども、現状では3学級増ということです。

やはり昨年同様、欠員の数が相当増えそうだという状況のようです。

それから、今日午前中に3つ会議があったんですが、その2つ目が働き方改革に関わる夏休みのまとめ取りなどということで、法的な整備がなされて、じきじきに文部科学省から来て説明をされるということで、給与に関する特別措置法ですね、給特法と言っていますが、その改正があって、働き方改革でどうしても超過が出るわけですが、夏休みのまとめ取りなどという形で進められつつあります。実質は令和3年度あたりからかということになるかと思いますが、随分変わってきている状況があります。

それから、学校教育につきましては、GIGAスクール構想ということで、令和5年度までに小・中学生に1人1台というのが、全国的に予算化が始まりました。今日の午前中の会議3つ目がこのGIGAスクール構想についてだったんですが、武雄市の場合は現在ほぼ1人1台あるわけですので、その更新等についての費用も出せるということで、さらに充実させていきたいと思っております。

それから、インフルエンザによる学級閉鎖が増えてきていまして、1月になりまして、現在、山内東小が3学級学級閉鎖ということです。

それから、被災者招待ということで、木下大サーカスは今年度、それからボストン美術館展は来年度になってからかと思いますが、招待がある予定になっております。

それから、行事等からとじていますが、12月25日に県の学校給食大会がありまして、そのときの講師がサガハイマツの中川原章先生だったんですが、武雄市も十何年になりますかね、がん教育で中川原先生の講演とかを中学生が聞いてくれているんですが、その武雄市の取り組み、非常に高い評価をされました。

それから、成人式も立派にさせていただきました。

範蔵まつりも非常にたくさんの参加があって、公民館も入り切れないくらいの方が入っていただいております。

それから、テレビ放映が、この前に橘小学校についても放映があったんですが、武内小のなぞペーの子どもがつくった問題など放映がありました。

31日は雄武町交流出発式で、A委員さん、よろしくお願ひいたします。

それから、意外と見る人が少ないんですが、立体作品展というのを毎年この時期にやっております、文化会館のミーティングホールであっております。

そういうことで、主な状況と行事等について御報告いたします。

以上です。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。

今、教育長に報告していただきましたけれども、何か御質問等ありましたらお願ひいたします。B委員さん。

○B委員

3の③令和2年度の学級数で、小学校の特別支援が6クラス増えて、中学校のほうは1減になっておりますが、小学校が増えると中学校も増えそうな気がするんですが、減っている理由というか、横ばいというんですか、そういう何か要因があるのかどうかということがまず1つと、ちょっと素人でよくわからないんですが、特別支援学級に入られる先生というのは、いわゆる小学校免許を持っていらっしゃればすぐ入れるのか、それとも特別支援の特別な資格をお持ちの方が入られるのか、その2点について教えてください。

○学校教育課長

まず、特別支援学級の学級数、小学校では増、中学校では減ということですが、小学校の場合は新1年生が入ってくる時に増えている状況、それから、学年の途中、1年生から6年生の間に適正に見たときに支援が必要であるとして入られるお子さんというのが、6年間ありますので、その中で割合的に増えるという状況で、途中で増えて6学級増という形になっています。

中学校の場合は横ばいと見ていただいたほうがいいのかと思いますけれども、変わらない状況で動いているというところです。

それから、特別支援学級の担任教師についてですが、教諭の免許を持っていれば担任をすることはできます。特別支援の免許というのもありますので、特別支援の免許を持った先生方もたくさんいらっしゃいますが、全てが持っていらっしゃるわけではありませんので、そこは学校の状況によって違うところです。ただ、研修会などを必ず受けてもらうような形にしているところでございます。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。B委員さん、よろしいでしょうか。

○B委員

新1年生が増えているということで、6年前に入った子どもたちが今、中学生になっていると思うんですが、この6年の間に新1年生で対象になるような子どもがかなり増え

ているという認識でよろしいでしょうか。

○教育長職務代理者

学校教育課長さん、よろしいですか。学校教育課長。

○学校教育課長

子どもたちの状況によっては、例えば、病弱のお子さんが入られれば病弱児学級ができますし、難聴のお子さんが入られれば難聴児学級ができますし、それはその年によってまた違います。

ちょっと今、今の6年生が入ったときの人数と、今度の1年生が入ったときの人数は手持ちをしておりませんので、今度の1年生が増えているということは、今はお答えができません。

○教育長職務代理者

よろしいですか。

○B委員

こども園の園長をしていますので、子どもたちの状況が今変化しつつあるのか、子どもたち自身の変化しつつあるのか、それとも学校側として、こういった子も特別支援にまず何というんですか、大人数よりも少人数がいいとか、そういう方向性があるのかというのを園側としても知りたい部分がありますので、詳しい情報がわかったら教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○教育長職務代理者

ほかにないでしょうか。C委員さん。

○C委員

今、B委員さんが言われたのも、学校教育課長さんがお答えされているのも含めてですけど、多分に今から先、早期で幼児までのうちに発見がされて、早いうちにということで小学校が増えていくというか、柔軟に学級ができやすいんだろうなという思いと、当然、小学校6年間で幾らか早目に発見したことで支援ができて、介助されて、中学校では場合によっては普通学級に入ったりとか、また、程度が重かったら支援学校に行ったりとか、当然、中学校は小学校の3校、4校から回ってくるので、中学校は減ってくるというのが当然出てくるかなという数値の問題で、学校教育課長さんのフォローをしているわけではないんですけど、そんな感じは受けました。

ただ、僕として質問したいのは、1つは教育長さんあたりをお願いしたいということで、やっぱりこれだけ増えてくれば、当たり前ですけど、先生方の負担は増えてくるというか、それだけ学んでこないと、さっき言った先生方が多くないのに入って早々にこういう学級を見てほしいと言わざるを得ない状況もこれから先出てくる中では、大学時代の研修の中に積極的に特別支援教育の推進というのが今後は特に必要になってくるのかなというのは、これ

は教育長さんへの要望と、もう一つ、実際にクラスがこれだけ増えてくる中で、先生方の研修であったりとか、そういうのは今後特に必要になってくるんだろうなと思うし、先生方が学校の中でそういう人たちへの支援みたいなものも、これまで武雄市は学級にいて、グリーンゾーンの子たちのために——今もしよんさっとかな、支援員を武雄市独自に採用して、民間の方から学校に入れていたのがあったと思うんですよ。

今後、こういう学級が増えてくれば、担任の先生たちの負担は増えても、そこで早くできるので、今度はそういう支援員さんたちが減って、普通学級よりも、場合によっては不登校であるとか、そういう子たちへの支援員を増やしていくとか、ちょっと視点を変えていくようなことも、今後、特別支援学級が手厚くなる可能性がどんどん増えていく中で、どうかすると学級に入れられない子たちへの支援というのを市独自でやっていくようなことも考えていかないといかんのかなというのをちょっと感じました。

○教育長職務代理者

教育長さんへの御要望もありましたけど、よろしくお願いします。

○教育長

学校訪問をされておわかりのように、子ども1人に1人の先生という形は、以前は絶対なかった形ですね。ですから、そういう面では子どもたちの実態に合った対応がだんだんできるようになってきたということは間違いなだろうと思います。知的な障害を持った子どもも情緒的な者も一緒に8人とかいう形でやっていたわけですので、そういう面では一人一人のニーズに合う体制というのが少しずつできていると。

うちの場合は、特に介護を必要とする子どもへの支援という学級もつくっているわけで、一概に増えているという言い方はできないだろうかなと思いますが、発達障害の子どもたちというのは、今これだけ理解が進みまして、数としても学校からも上がってくるという状況は、そこは間違いなく増えているのかなという気もします。ですから、通級学級を増やしていったりしてきているわけで、それぞれへの対応ができるように、ニーズに合った対応を進めているという状況ですね。

それから、ちょっと話にありましたように、うれしの特別支援学校なんかは高等部に進む生徒さんが非常に多いんですね。どうやって生きていくかということを考えたときに、中学校から、あるいは小学校から支援学校に行って、いろんな技術をという保護者の方もいらっしやる。そういう形で減っている部分もあるかもしれません。

これは年度によって違いますけれども、ですから、発達障害対応で増えている部分もありますし、特別支援学級の増減そのものは、プラス6でめちゃくちゃ増えたようではございますけれども、1人で1学級という場合も現実あるわけで、一概にはちょっと言えないところがあるということです。

それから、支援員さんは今何人ぐらいつけとったかな。

○学校教育課長

27名。

○教育長

27名かな。これも確かにもっとつけてあるところもあります。しかし、うちでも16校で27名ということは、大変な負担をしてもらって、つけてもらっているわけです。

もちろん、さらに要望はたくさんあるわけですがけれども、状況を見て、できる範囲で対応していくと言っている現状ですね。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。

何かほかに。A委員さん。

○A委員

特別支援学級で学校訪問とかをさせていただいたときに、1対1で担当している学級も何クラスもあると思うんですね。それを見たときに、やっぱり地元の学校で学びたいと思われている方の要望というか、そういうのも割かし聞き入れられるようになってきているのかなと、言い方がちょっとおかしいかもしれないですけど。

だから、その子どもさんたちにとっては、やっぱり地元の学校で学びたいという思いを持たれているので、そういうふうな配慮もあって、1対1で担任をしてでも地元の学校に通えるような体制をとられているのかなという感じを受けて、学校訪問のときに私は思っておりましたけれども、そういう考え方もいいんですかね。

○教育長職務代理者

教育長さん。

○教育長

20年前、30年前とすれば、特別支援学級に対する保護者さん、地域の意識というのが随分変わってきていると思うんですね。その子どもの個性と見て、それに対応していくと。それだけの違いなんだということであれば、おっしゃるように地元でという保護者さんも当然増えてくると。そこがやっぱり増えている原因でしょうね。

○教育長職務代理者

ほかにないでしょうか。

○B委員

4番の一番最初のGIGAスクール構想というのをちょっと知らなくて、簡単にどういうことか、教えていただいてもよろしいでしょうか。

○教育長

12月に令和元年度の補正予算で2,300億円ぐらいを国がつけたんですね。令和の時代はタブレットが進んでいるという意味ではなくて、それが普通になる時代だということ、実

は全国でも佐賀県が突出して率としては高いんですけども、それでもなかなか進まないということで、そこに書いているように、令和5年度までに小・中学生に1人1台、これは全国の小・中です。そういう進め方をするというので、非常にばたばたされています。

実際には機械が追いつかないんじゃないかと、それから、通信設備が要るわけですから、それだけでも相当な時間的なものがかかるし、いずれにしても、最終的には令和5年度までということに進めていくということは決まっているんですね。

これまで、うちが平成26年、27年に小・中と入れたわけですが、その準備などからすると、令和5年度までというのは結構厳しいスケジュールだなということはあるんですけども、進め方としては、こういう方向で進んでいくということです。——わかりにくいですね。

○B委員

国の構想としての話ですね。

○教育長

国の構想です。

○B委員

これに応じて、今まで1人1台だった武雄市のことにプラスアルファ何かということはまだ具体的には。

○教育長

1人1台が更新の時期に来ますから、それはこの構想で対応できると。ですから、わかりやすく言えば、タブレット1台に4万5,000円は出すと国は言っているんですね。そうしますと、うちのはそんな安くないですけど、やっぱりそれだけの補助があれば随分進むだろうということです。

○B委員

ありがとうございます。

○教育長職務代理者

ほかにないでしょうか。

○D委員

今に関連しまして、武雄市はICTで早くからタブレットを導入していると思うんですけど、その機器を使ってどういうことをするかというのが大事だと思うんです。武雄市の今後のICT教育の方向性はどういうふう考えられているか、簡単に御説明いただけたらと思いますけど。

○教育長

例えば、数億円かけておるわけですよ。何億円という金をかけておるわけですよ。そしたら、税金を払う立場からすれば、どれだけ学力が向上したのと言いたくなるのが当然だと思います。

うんですよ。

だから、学力に直結するものばかりじゃないけれども、これからの社会を生きる子どもたちにとって自在に活用して情報を収集、活用していく能力というのは欠かせないものだし、そういう面で、今、授業を見られておわかりのように、協同的な学びをするにしても話し合っている、書いてするというよりも、やっぱり画像でぽっと見ながら友達の考えに意見を出し合うなんていう授業を結構見もらったと思うんですよ。ですから、そういう面では、学習の方法までも変わってきていると。

ただ、それにはやっぱり片方に指導力が要りますから、指導力も高めていかないといけない。

仮に全国で令和5年度までに入ったとして、どう使うかというのは相当な苦勞が伴うだろうと思うんですね。そういう面では、どういうふうに生かすかということで、この発表以来、うちには視察希望が出ている。それは当然だと思うんですね。ちょっとまとまりなく話しましたけれども。

○教育長職務代理者

いいですか。D委員さん。

○D委員

武雄市はICTを使っただけの反転授業とか、具体的に考えられていたと思うんですけど、反転授業などは今後も進めていく方向でしょうか。

○教育長

実際難しいところですね。なぜかという、前の教科書に沿った形で対応してつくっているわけですね。それが新しい教科書で実際どういう配列になっているかとなると、学ぶ内容はそう変わらんわけだから、順番を入れかえたら使えないことはないかもわからん。しかし、教科書が新しく変わったときにどれぐらい使えるかはちょっとまだわからないですね。

○D委員

意見なんですけど、私の感覚では反転授業だと家庭にも結構負担がいくと思うので、学力に格差が生まれるのかなと思っていて、学校訪問とかで見ている、使われ方が、例えば、音楽とか図工のときに感覚です、右脳を使うようなものにはすごくタブレットというか、ICTはいいのかなと思うんですけど、読み書きとか、そういう基本的な国語、算数にはやっぱりちゃんと紙と先生の板書とかのほうが頭に入るんじゃないかなという感じで、武雄市としてどういうふうな方向性で行くのかというのは、国が進める中でしっかり持っていないといけないのかなと思っていて、例えば、保護者のアンケートをとったりとか、そういう集計をするのにはすごくいいのかなと思うんですけど、基礎学力というところでICTをというのは、正直ちょっとどうなのかなとは感じているところです。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。教育長さん。

○教育長

話せば長くなりますが、それはどなたも思われることだろうと思うんですよ。だから、どこでどういうふうにするかということがそれぞれ、この六、七年で随分、自然と淘汰されてきた部分というのは感じるんですね。

間違いないのは、ICT教育の興味、関心、意欲づけと、これは絶大なものですし、まず高校生でもタブレットを使うときには集中した授業を見るんですよ。だから、そこは有効に生かしつつ、何は書かせ、何は使い、何は読ませと、そういうところは恐らく先生たちも意識しながらやってくれていると思うんですね。

だから、何が基礎かという、またその論議をしないといけませんけど、実際にはそういう情報を活用する力も読み書きと並ぶべき力として必要なんだというのが新学習指導要領等の基盤の考え方ですから、それが実際にどういう形で鍛えられるものかというのは、今まさに取り組んでいるところだろうなと思います。

○教育長職務代理者

デジタル信号に変わってからがらっと変わりましたので、なかなか教育もそれに伴って変わっているところかなと思いますけれども、どういうふうに生かしていくかという、D委員さん、今の答えでよろしいですか。

○D委員

ICT、情報処理のほうを推進するので、先生たちの負担がそっちに行くと、読み書きの基礎学力のほうに影響が出てしまうのがちょっと心配というところです。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。そこら辺は。

○教育長

余り長くなってもいかんけど、ちょっと誤解されたら困るので。

例えば、反転学習を進めるときにも、家の人がおってくれたがそれはよかったかもしれんけれども、いなくてもできる程度のものをつくったわけですよ。保護者がいなくてもできる程度。もちろん横におって、一緒に考えてくれたり、助言してくれたら、それはそれで効果があったかもしれません。

ですから、タブレットを使ってICT教育と基礎基本は別という考え方はできないと。一つの普通というツールとして活用しようという言い方をしているわけですから、基礎基本を身につけさせるために、タブレットであれば一人一人違った対応もできますよと。ということは、いわゆる基礎基本の充実にもつながるわけですから、ずっと前の論議はICT教育を進めると道徳教育はだめじゃないかと、そういう論議までしたわけですよ。

ですから、基礎基本をさらに充実、発展させて、一人一人の個人差の学力に対応する、個

性の違いに対応するという狙いですから、対立的に捉えると非常に危険だと思いますけど。

○教育長職務代理者

ほかに移ってよろしいですか。

ほかに。E委員さん。

○E委員

3番の(2)の働き方改革ですけれども、夏休みのまとめ取り、時期的にいったら夏休みとか長期休暇中が取りやすいと思うんですけれども、どうしても、例えば、義務だと登校日があつたり、あるいは指定校に指定されると、その研究で先生たちは勤務に当たらなければいけないとかもあつたりすると思うんですよね。望ましいことではあるんだけど、平日の勤務のあり方をどうするかというのが一番、これ以前に来ることじゃないかなと思うんです。

武雄市の場合、タイムレコーダー等が導入されているわけですけれども、まだ年度末ではないのでわかりかねるとは思いますけれども、そういうタイムレコーダー等を導入したことによって働き方改革が現実のものとして、先生たちの負担が減っているものというふうに見えますでしょうか。

○学校教育課長

今、2点あつたと思います。

夏季休業中でまとめ取りをするということが1つ。

その点については、本日、文科省のほうから説明があつたと教育長のほうから話があつたと思うんですが、やはり夏休みの休業中の教職員の現実ですと、ほぼ空きがない、研修会がいっぱい入っているような状況がありますので、それをするというのであれば、そういったところの整理も必要だろうと、県の教育委員会のほうも認識をしておられます。だから、しばらく整理をする時間が必要でしょうねというところでもございました。

それから、タイムレコーダーを導入している点ですが、毎月、学校のほうでは集計をいただいていると思っています。

やはり多い月と少ない月というのがどうしてもあります。それから、多い方と少ない方というのもあります。少ない方がされていないというわけではないんですけれども、そういったところで目の前に数字がきちっと出てきますので、管理職のほうから適正な指導はなされて、時間の使い方、タイムマネジメントに対する考え方、そういったものがなされていると捉えております。

○E委員

数値として、例えば、年度末とかにそういうのが出てきますでしょうか。

○教育長職務代理者

学校教育課長。

○学校教育課長

同じ月に教育委員会のほうで集計をするように準備していますので、10月、2月、6月をとるようにしているんですけども、それをまとめて、今度は学校のほうにお返しをしたいと。

それから、各学校それぞれ工夫された対応をされていますので、それを共有化して、自分の学校で生かせるところは他の学校のいい取り組みを生かしてもらうような形を最終的には今年度末にとりたいと考えております。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。

○教育長

いいですか。

○教育長職務代理者

教育長。

○教育長

これも話せば長いことになるんですけど、最終的に狙っているのは、子どもたちのための働き方改革にならないと意味がない。先生たちのためと、確かに超過勤務等がありますので、そういうふうを受けとめがちなんですが、そういう状況の中で先生たちが存分な働きはできんだろうと。それから、最終的にこの働き方改革は子どもたちに還元される、子どもたちのためのものでないといけないと。

そこまでいこうとすると、例えば、来年など学習指導要領も変わって、教科書も変わってという状況の中で、どれだけ先生方の有効な時間がつくれるだろうかというのは非常に難しいところがありますけど、ただ、この働き方によって被害者を出すわけにはいきませんから、これはいろんな議論が出るころだろうと思います。

おっしゃったように、夏休みに本当にまとめて取れるかなんてというのは、これも非常に難しいところがあるんですね。でも、やっぱり進めないといけないでしょうということです。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。

それでは、ほかにないでしょうか〔「なし」の声あり〕。

ないようですので、先に進めたいと思います。

次は議事なんですけれども、提出事項、協議事項、報告事項ともないようですけれども、よろしいでしょうか〔「はい」の声あり〕。

じゃ、次に3番目の報告事項、図書館の選書についてですけれども、これにつきましても前もって印刷物をいただいておりますので、見ていただいていると思います。

何かお聞きするところがありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか〔「はい」の声あり〕。

じゃ、これでお願いいたしたいと思います。

それでは、次は各課からの報告です。

各課からの報告は、一部差しかえがありましたけれども、新たに説明等を加えるところがありましたら課のほうでお願いいたします。館長。

○図書館・歴史資料館長

図書館・歴史資料館からですけれども、11 ページの行事予定にも載せておりますけれども、今、お手元のほうに1枚チラシをお配りさせていただいています。

図書館のいろんな貸し出し情報とか蔵書情報、そういうものを全て行っているシステムが平成25年リニューアルと同時に変わって、それをずっと今使っていて、今回、2月6日からバージョンアップした新しいシステムに変わります。

それに伴いまして、1、2、3と大きく分けていますけれども、利用者の皆様にいろんな不便をおかけする分、こういうチラシをつくって、館内では1カ月前、1月6日の日から情報を流していますけれども、前日の2月5日は一日システムをとめて入れ換えを行います。そういうことで、いつも利用されている館内の自動検索機とか自動貸出機が一切使えません。ただ、利用はできますので、オフラインということで全部受付をして、本の貸し出し等はできます。

それ以外には、大きな1の2番目にほかの館からの借り受け、相互貸借といたしますけれども、これについては1月26日の日から停止させていただいて、ちょっと不便をおかけしますが、あと大きく2番目でいいますと、システムが新しくなるのに伴いまして、図書館のホームページのURLとメールアドレスを変更いたします。ですから、登録されている方については、また新たなもので検索をお願いしたい。

それと、大きく3番目に館内の無料Wi-Fiにつきましても、館内に来ていただいて、ずっと表示していますので、今度から新しくパスワードを入力して使っていただくという形になります。

大きく不便をおかけするのがこの分でありまして、こういうことで新しいシステムに変わりますと、館内では今月の24日からスタッフ向けの研修とかをやりますし、今現在、ずっとシステム開発を進めて、はっきり言いますと、1月26日から新しいシステム、中身をつくり上げていきます。

あとこういう感じで言いますと、いろんなところへの広報というか、周知につきましては、明日の部長会を通じて武雄市役所の全ての課にこういうことが変わりますという分と、今度2月の校長会を通じて学校関係にもこういうことを流していきます。

当然県内の図書館については、もう既に情報を流してやっているところがございます。お客様にはいろいろ不便をおかけしますが、こういう形でシステムが変わるということの御認識をお願いしたいと思います。

○教育長職務代理者

どうもありがとうございました。

何か今の件で御質問はありますか。あったらお願いいたします。

チラシにちゃんと書いてありますので、よろしいですかね。

どうもありがとうございました。

ほかにないでしょうか。お願いします。

○文化課長

文化課から、チラシのほうをお手元に2枚お配りいたしております。

3月1日の三遊亭好楽・王楽の「親子落語競演会」と3月14日、高嶋ちさ子の「わがまま音楽会」です。どちらもチケットのほうはまだございますので、教育委員の皆様におかれましても、よろしければ御来場いただければと思います。よろしくをお願いいたします。

○教育長職務代理者

どうもありがとうございました。

皆様方よろしくをお願いいたします。

ほかにないでしょうか。はい、どうぞ。

○こども未来課参事

ピンク色の紙のチラシをお配りしておりますので、その説明をさせていただきます。

ピンク色の分で、令和2年2月22日の午後2時から武雄市子育て講演会を開催いたします。

講師の先生は井桁容子先生ということで、NHKのEテレとかにも出演なさっている先生になっております。とてもいい話が聞ける講演会になるとみんな期待しておりますので、ぜひおいでいただければと思っております。

それと一緒に綴じておりますのが2枚目になりますが、これは来週のことになるんですけども、子育て支援者交流会を29日の水曜日10時から12時に開催予定にしております。

今回はテーマを『あたたかい つながりが 生まれる地域へ』～武雄って 子育てしやすいね～という内容で交流会を開催予定にしております。

地域で活動されている方の発表をお願いして、皆さんで地域のことを考えるグループ討議を行うようにしておりますので、お時間がおありでしたら、ぜひおいでいただければと思っております。

子育て支援センターから2点のお知らせです。よろしくをお願いいたします。

○教育長職務代理者

どうもありがとうございました。

皆さん御存じの方も発表されるようですので、よろしくをお願いいたします。

ほかにないでしょうか。生涯学習課長。

○生涯学習課長

先月の委員会でも申したんですが、雄武町児童交流事業が1月31日から2月4日となっております。

今日、お手元のほうに出発式と帰着式の御案内を差し上げております。

出発式につきましては午前5時40分からとなっております、ちょっと朝早くなっておりますが、よろしく願いいたします。市役所の1階ホールで行います。

2月4日、帰着式につきましては午後7時10分ごろとしておりますが、道路交通事情等で時間に変更になる場合もございますので、御了承ください。

あとA委員さんにおかれましては、団長として引率のほうをよろしく願いいたします。

以上でございます。

○教育長職務代理者

どうもありがとうございました。

ほかにないでしょうか〔「なし」の声あり〕。

ほかにないようですので、次回の日程についてですけれども、次回は2月14日、この日は——最初はメールが来ておりましたように17日でしたけれども、14日に変更になりました。金曜日です。

まず、子ども教育会議が1時半から4階の会議室、ここにあります。それから、15時から定例教育委員会が4階の災害対策本部室であります。よろしく願いいたします。

その他のほうに移ります。

卒業式・入学式の出席割り当てについてです。

これはお手元にお配りしてあったと思いますけれども、説明をお願いいたします。

○教育総務課長

お手元のほうに卒業式と入学式の小学校、中学校の割当表をお配りさせていただいております。

こちらのほうで割り振りをさせていただいております。どうしてもということがございましたら、また後で事務局のほうまで御連絡をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○教育長職務代理者

ありがとうございました。

もし都合がつかれない場合は早目に連絡をお願いいたします。

○学校教育課長

私のほうから。

○教育長職務代理者

学校教育課長。

○学校教育課長

済みません。先ほどB委員さんからお尋ねがあった件で、特別支援学級の在籍者数の変化ですけれども、平成25年度、小学校で50名の在籍、令和2年度は現在予定ですが、162名。中学校ですが、平成25年度15名、令和2年度54名ということでございます。それから、平成31年度、小学校で134名、中学校で46名ということですので、小学校のほうが非常に増えています。

先ほど教育長からもちよつと話がありましたけれども、小学校まで地元で、中学校からは特別支援学校にというお子さんも中にはいらっしゃいます。それも年度によってちよつと違うんですけれども、現状として、そういった中で学級数の増減があると。

特別支援学級は8名が上限ですので、その分で年度によって増えたり減ったりというのが非常に起こりやすいというところでございます。

以上です。

○教育長職務代理者

どうもありがとうございました。

○教育長

その162というのは通級も入れた数。

○学校教育課長

いえ、入れないです。

○教育長

入れないで。

○学校教育課長

はい。通級を入れるともつと……

○教育長

20人ずつぐらいおる。

○学校教育課長

はい。

○教育長職務代理者

かなり多いですね。どうもありがとうございました。

B委員さん、よろしいですか。

○B委員

ありがとうございました。

○F委員

1つ、よかですか。

○教育長職務代理者

はい。F委員さん。

○F委員

武雄市の状況ですが、昨日か今日かの新聞に混合名簿の件が載って、来年4月からどこでも対応できると。武雄市内の中学校も混合名簿にするという形になっていくんですかね。入学式から男女がまざってくるという感じになるんですか。卒業式までは男女分かれてだろうと思いますけど、そういう時代になってくるんですかね。どういう状況なんですか。何か今日の新聞だと全県下なるという記事だったんですけど。

○教育長職務代理者

学校教育課長。

○学校教育課長

来年度から混合名簿で行うというのは、校長会のほうで話をしているところですので、その準備はなされていると思っています。

ただ、入学式のときに男女混ざって並ぶかどうかというのは、それはわかりませんが、名簿自体は混合名簿で行われるということで、市内の小・中学校、認識をしております。

○F委員

ちょっと入学式のときは気をつけとかんと、男女がわからんときがありますからですね、名前だけで。そいけん、入学式で意気揚々と来られて、間違えたら保護者からいろいろありますので、本当に慎重に対応していかないといけないと思っていますので。わかりました。どこでもせんばいかんですね。

○教育長職務代理者

そこら辺、よろしくをお願いします。

じゃ、ほかにないでしょうか。B委員さん。

○B委員

令和2年度の11月に第71回造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会が佐賀で行われます。

今回の全国大会は武雄市がメイン会場となっております。私が運営しているあさひこども園が幼保の部、小学校が朝日小学校、武雄小学校、山内東小学校、中学校が武雄中学校、高校が武雄高校ということで、武雄がメイン会場となっております。

そのプレ大会が1月30日に行われる予定です。会場は、あさひこども園、小学校は朝日小学校、中学校は武雄中学校、全体会は朝日小学校で行われまして、幼保の部が9時半受付の10時開始、小・中学校の部は朝日小学校の受付開始が1時半、公開授業が2時5分、中学校は1時20分受付開始の1時50分公開授業となっておりますので、お時間許される方はお越しいただければと思います。よろしくをお願いします。

○教育長職務代理者

1月30日、これは何か配られるんですかね。

○B委員

決定ではないんですが、武雄市教育委員会も後援になっております。全国大会のほうはですね。

○教育長職務代理者

じゃ、皆さんはその件について御存じ。

○教育長

これ何かつくってあるかな。プレ大会というのは。

○B委員

いや、プレ大会のはないと思います。

○F委員

さっきあったんじゃないですか。

○B委員

これは事務局で配っていた分です。済みません。多分、事務局のほうが武雄市教育委員会に持って行ってないだけだと思います。

○教育長職務代理者

もしわかったら、皆さんわかったほうがいいと思いますので。

○B委員

1月30日なので。

○教育長職務代理者

もうすぐですね。

○B委員

はい。

○教育長職務代理者

じゃ、今の件、よろしく願いいたします。

ほかにないでしょうか〔「なし」の声あり〕。

特にないようですので、これで終わってよろしいですかね。

じゃ、今日はことし初めての教育委員会でしたけれども、またよろしく願いいたします。どうもお疲れさまでした。

午後3時56分 閉会